花咲く明日を

～ 吉浜小学校だより ～

高浜市立吉浜小学校
令和７年４月２４日　No.６

１年生も給食が始まりました

２２日火曜日から１年生も給食が始まりました。初めての給食を前に、栄養教諭、担任、支援員が各学級で１時間ずつ配膳や片付けのきまりなどの説明と、実際に食器を使ってのシミュレーションを行いました。

こうして迎えた初めての給食。シミュレーションの成果を発揮し、給食当番の子どもたちもよくがんばりました。そして、みんなでおいしい給食を味わうことができました。この日のメインはカレーライス。「３回もおかわりをしちゃった」と話してくれた子もいました。１年生のみなさん、初めての給食はどうでしたか。

花咲く明日を

～ 吉浜小学校だより ～

高浜市立吉浜小学校
令和７年４月２５日　No.７

明日は授業参観＆PTA総会および講演会です

「授業参観に来てくれたおうちの人のおしゃべりが気になって授業に集中できなかった」

私がまだ担任として勤務していた頃、授業参観後にクラスの子どもたちからたびたび聞いたことばです。本当に悲しそうに話すのです。その時は、「みんなのことが心配だから、周りの人と、気になってることや心配なことを話されてるんじゃないかな」というようなことを話していましたが、大好きなおうちの人が、自分をあまり見てくれずおしゃべりに夢中な姿を見て悲しかったんだろうと思います。それにつけても、子どもはよく見ているんだなということを感じました。授業参観が近づくと、このことを思い出します。そして、次のようなことをいつも考えています。

子どもは、「言う」ようにはなかなかなりませんが、「する」ようにはなるものです。いくら私たち教員が、正面きって、もっともらしいことを何度言い聞かせたところで、簡単に動くものではありません。ところが、教員が何気なく振舞うその無意識の言動、つまり、後ろ姿から、子どもは敏感にしかも巧妙に教員の言動や教員の生き方を我がものとして身に付け、心にしみ込ませていくものだと感じています。教育の第一歩は、教壇に立って正面きって行った指導よりも、むしろ日常の教員の人間そのものの姿から始まるものです。人をはぐくむものは人であり、人格を培うものは人格以外にありません。いつの時代にあっても、教育の究極を決するのは人であり、「教育は人なり」といわれる所以もここにあります。

ここに記した「教員」という部分ですが、「子どもの周りの大人」と表現してもよいものだと考えています。保護者のみなさんも教員も、そして、地域のみなさんもみんな含まれる「子どもの周りの大人」です。子どもたちに自らの姿で、示せるような、語れるような大人でありたいですね。本校の保護者のみなさんにはご理解いただいており、安心して授業参観を迎えることができています。本当にありがとうございます。明日も、子どもたちに大人のしっかりした姿を見せましょう。

さて、令和７年度の初めての授業参観になります。子どもたちの様子をよくご覧ください。そして、頑張ったところや、立派だったところなど、頑張っている様子をたくさん見つけ、たくさん褒めてあげてください。よろしくお願いいたします。

子どもの生きる力を育む整理収納のススメ

講師として整理収納教育士として活躍して見える谷口有里 様にきていただき、PTA講演会を行います。授業参観、PTA総会に引き続いての開催となります。

最近、家庭科の教科書にも記載されるようになったことからも分かるように、「整理収納・片付けのスキルを身に付ける学習」が重視されるようになりました。それは、将来子どもが自立するために必要なスキルのひとつであり、整理収納・片付けのスキルを身につけることは、自分で考え、選択する力を身につけることにもつながります。そのために整理収納の基本的なやり方をまずは保護者のみなさんに知っていただき、ご家庭で子どもにどう促していくのかという点について教えていただけると思います。ぜひご参加ください。

谷 口 有 里　様

１９８１年生まれ。愛知県刈谷市在住。学生時代は教育を学び、幼小中高の教員免許を取得。現在は二人の娘を育てながら、講座や自宅セミナーの開催、整理収納作業を行っているが、片づけが苦手だった過去をもつ。

＜整理収納士HPより＞

花咲く明日を

～ 吉浜小学校だより ～

高浜市立吉浜小学校
令和７年４月26日 No.8

「令和7年度の取組リーフ」を作成しました

高浜市立吉浜小学校　令和７年度の取組

教育目標　強いからだと美しい心をもった児童を育成する

○ 考える子　○ 健康な子　○ 素直な子

目指す子ども像「ふるさとに誇りをもち、ともに学んで未来を拓く吉浜っ子」

学校経営ビジョン

子どもが自立した大人になるための基盤を育み、自信と希望をもって生きていくことができるようにするための学びを展開する

ともに学びを深める授業

自ら創りだしたフラッグ演技

経営方針

①子どもの主体性を育む
（子ども自身が自分を育てられるよう学校・学年・学級行事や児童会活動等への支援及びその活動を認め励ます教員の働きかけを充実させる）

②学年・学級経営の充実
（理想とする学年・学級の姿を子どもと共有し、PDCAサイクルを活用しながらありたい学年・学級の実現を目指す）

③教員の授業力向上を図る
（子どもが聴き合い、考え、語り合い、ともに学びを深める授業を目指す）

④地域愛を育む教育活動の展開
（地域の方々と協働し、感謝する心と地域愛が育つ活動を行う）

⑤教職員の働き方改革に係る業務改善
（教職員が心身ともに健康で、毎日、笑顔で子どもたちの前に立つこと及び教育の質の改善を図るために業務改善を進める）

主体性を育む交流活動

地域愛を育む菊人形制作

ともに学びを深めようとする子

・授業や学級での活動の中で、子どもの聴く力、話す力を伸ばしていきます。特に、「友達の意見を踏まえて自分の考えを話す」ことに力を入れます。
・学習課題の工夫等により、子どもの学習に対する意欲、課題に対する追究意欲を高めていきます。
・主体的・対話的で深い学びのある授業の創造により、ともに学びを深める子どもを育てます。

主体的に活動できる子

・行事や児童会活動において、子どもが、「自ら企画、協働して実行、振り返り」を行えるようにするとともに、その活動を賞賛することで、子どもの主体性を育てます。
・PDCAを活用し、子どもが理想とする学級を目指します。その中で子どもが互いのよさを認め合い、自分の成長に気付きながら自己向上力を育む学級づくりを進めます。

感謝する心をもつ子

・地域の方々との野菜栽培、福祉実践教室、菊人形・細工人形制作、防災教育等の活動を通して、感謝の心と地域愛を育みながら、ふるさとに誇りをもち、地域に貢献しようとする子どもを育てます。
・学校と保護者・地域との連携を密にし、保護者や地域の方と協働して心豊かな児童の育成に努めます。

今年度の主な予定

4月
八日(火) 入学式、始業式
十五日(火) 給食開始(一年生 二十二日)
十八日(金) 離退任式
二十三日(水) 家庭訪問～二十五日(金)
二十六日(土) 授業参観・PTA総会

5月
九日(金) 校外学習(五年生除く)
二十日(火) 校内運動会
二十二日(木) 運動会(保護者向け)

6月
二十一日(土) 高浜市少年の主張大会
二十二日(日) 緑の学校～二十三日(月)

7月
十四日(月) 個別懇談会～十八日(金)
十八日(金) 給食終了
二十一日(日) 夏季休業
～八月三十一日(日)

8月
十日(土) 学校閉校日～十六日(金)
(改修工事のため出校日は設けません)

9月
三日(水) 給食開始
二十八日(日) 修学旅行～二十九日(月)

10月
十日(金) 前期終業式
十四日(火) 後期始業

11月
六日(木) 校外学習(六年生除く)
十八日(火) 就学時健康診断
二十一日(金) 県民の日学校ホリディ
二十九日(土) 授業参観

12月
十六日(火) 個別懇談会～十九日(金)
十九日(金) 給食終了
二十四日(水) 冬季休業～一月六日(火)

1月
九日(金) 書き初め会
九日(木) 給食開始
十日(土) 児童生徒美術展～十一日(日)
十四日(水) 書き初め展～十六日(金)
二十五日(日) 高浜シティマラソン

2月
三日(火) 入学説明会
九日(月) 学習発表週間～十三日(金)

3月
十六日(月) 給食終了(六年生)
十八日(水) 継承式 給食終了(一～五年生)
十九日(木) 卒業証書授与式
二十四日(火) 修了式

高浜市立吉浜小学校Official Site　http://www.yosisyo.com/

吉浜小学校の取組や方針について、「令和７年度の取組リーフ」にまとめました。今年度もご理解、ご支援をいただきますようよろしくお願いします。

花咲く明日を

～ 吉浜小学校だより ～

高浜市立吉浜小学校
令和７年４月２６日　No.９

授業参観ありがとうございました

　授業参観にお越しくださり、ありがとうございました。お子さんの様子はいかがでしたか。登校した子どもたちは、「授業参観、嫌だなあ。ドキドキするもん」と話す子もいれば、反対に、「授業参観、楽しみ」と話してくれる子もいました。しかし、いずれもにこにこの笑顔で教室へ向かっていきました。本日を楽しみにしていたのでしょう。

　授業では子どもたちの頑張っていた姿を見ることができたでしょうか。ご家庭でも本日の授業参観について話題にしていただき、例えば、よく挙手をしていた、姿勢がよかった、先生や友達の方を見て聴いていた、文字を丁寧に書いていたなど、どんなことでも、当たり前のことでも結構です。「〇〇よくがんばっていたね」と伝えてあげてくださいね。当たり前のことが当たり前のようにできる、これこそ特別なことと思っていますから。

花咲く明日を

～ 吉浜小学校だより ～

高浜市立吉浜小学校
令和7年4月30日 No.10

PTA講演会～子どもの生きる力を育む整理収納のススメ～

授業参観、PTA総会に引き続いてPTA講演会を行いました。講師に整理収納教育士として活躍してみえる谷口有里 様にきていただきました。ご講演の内容をお伝えします。

子どもの生きる力を育む整理収納のススメ

整理収納教育士　谷口有里

自己紹介

刈谷市在住。43歳。B型。築16年の自宅で、夫と大学生と高校生の娘との四人暮らし。

私の仕事は整理収納アドバイザー普及認定講座、整理収納教育士認定講座という二つの講座を行うこと。その他にも今日のようなPTA講座や市民講座などもやっている。オンラインでやったり、私の自宅に直接来ていただき、家中の収納を見てもらったりすることもある。整理収納サービスといって、みなさんの自宅に伺わせていただき、いっしょに整理収納を行うこともある。

今はこんな仕事をしているが、昔は整理収納が苦手、「片付けなさい」と言われ続けて育ってきたタイプ。大人になっても、お母さんになっても変わらず苦手。しかし、子どもが小学生になったときにこのままではまずいと思い、自分で「勉強して、実践して」ということを繰り返す中で、整理収納で暮らしが変わったと実感した。今日の話が整理収納を始めるきっかけになればと思う。

はじめに～生きる力とは～

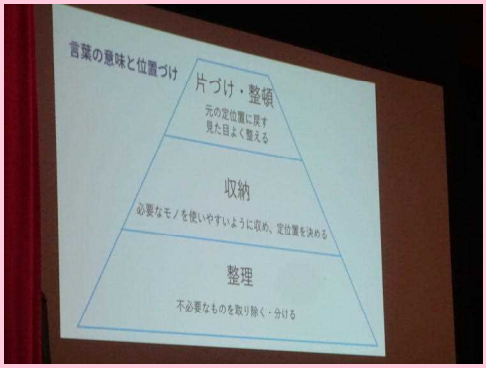
右の図は文部科学省の学習指導要領の手引きにあるもの。「学んだことを人生や社会に生かそうとする力」、「実際の社会や生活に生きて働く力」、「未知の状況にも対応できる力」の3つをバランスよく育むことが、「生きる力」につながっていくということが記されている。今の学校教育では、図の右下「未知の状況にも対応できる力」を育むことが特に重視されているように感じている。

「生きる力」は学校教育でしか育めないものではない。家庭の中でも育むことはできる。そして、整理収納でも「生きる力」を育むことができる。今日は整理収納が「生きる力」にどうつながっていくのかということを話したい。整理収納は自分の住む環境を自分の力で整えること。子どもが自立していく上で欠かせない力。整理収納のやり方を知っていただき、ご家庭でもぜひ実践してほしい。

「片付けなさい」で片付けられないのはなぜ？

私も親から繰り返し言われた言葉。そして、整理収納を学ぶ前に子どもたちに言い続けた言葉。でも、私も子どもも絶対に片付かなかった。なぜでしょう。

整理収納とよく似た言葉に「片づけ・整頓」がある。これらの言葉だが、「整理」とは不必要な物を取り除くこと。そして、分けること。これが土台。この整理を行った後にするのが、「収納」。収納は必要な物を使いやすいように定位置に収めること、収めた物を使った後、元の定位置に戻すこと、これが、「片づけ」。そして、それを見栄えよく整えることが「整頓」。つまり、整理と収納ができていないの



に片づけは難しい、できないということ。まずは土台である整理・収納をしっかりとやっておくことが大切。

整理収納の基本

整理収納は難しくない。3ステップ。「出す」、「分ける」、「収める」の３ステップです。

まずは全部出す。思ったよりも物がたくさん入っている。それを自分自身の目で確認する。出せば、掃除機や雑巾をかけたくなるもの。全部というのは、引き出し一段ずつでもよい。

次に、分ける。「使っているか、使っていないか」、この先、「使いたいか、使いたくないか」の観点で分けることが大切。「いる、いらない」「使える、使えない」の観点で分けると失敗する。これだと、ほぼ、「いる」「使える」になってしまう。とっておくだけでは生きない、使ってこそ生きる。分けることは、多くの中から選ぶこと。簡単なようで難しい。考え、判断し、考え、判断しの繰り返し。これが大切。子どもは将来、自分の進むべき道を判断し、決定していくが、それに比べたら整理収納で行う判断は小さな判断。しかし、この小さな判断ができなくて、どうして大きな判断ができるのか。逆に、小さな判断の繰り返しが、大きな判断をする力になっていく。

最後は、収める。どうやったら使いやすいか、どうしたら心地よく過ごせるのかを考え、定位置を決めていく。

考え、判断することで、生きる力が育まれていく。整理収納は主婦の仕事ではない、お母さんの仕事ではない。家族みんなで行うもの。GW、家族みんなで取り組んでみてはいかがでしょうか。例えば、家の顔である玄関。家族が毎日、使う場所。家族全員のものがある場所。判断するために、家族に聞かなければならない、一人ではできない場所。おすすめです。

整理収納のよりよい勧め方

子どもに対するよりよい勧め方やNG行動NGワードは次の５つ。

①いやいややらない。大人がため息をつきながらやっていては子どもはがんばれない。大人が楽しんでやる。音楽をかける、家族のイベントにする、ゲーム的な要素を取り入れるなど、明るく楽しい雰囲気を創ってください。

②ダラダラ時間をかけない。ゴールが見通せなければがんばれない。整理収納は頭を使うことなので、疲れやすい。時間を決めて行う。

③子どものものを勝手に捨てる。自分で、考え、判断し、選ぶという貴重な機会を奪っては意味がなくなってしまう。

④NGワード。捨てちゃうの？、もったいない、高かったのに、〇〇さんがくれたのに。子どもは必要か、使うかで判断をしている。大人もそう促している。子どもの判断を尊重する。大人にとって必要なものであれば、大人の持ち物として、大人の場所に置けばよい。

⑤せっかく終えたのに、「このへん、まだじゃない？」はNGワード。「前よりよくなった、使いやすくなったね」のような言葉がけを。整理収納はいきなりはなかなかできない。スモールステップを繰り返していけばよい。子どもなりの小さながんばりを認めていきたい。生きる力や自立、自己肯定感を育む、高めるということを忘れないでほしい。

今回、お話を聞かせていただき、私も家庭で、「片づけなさい」ということをしょっちゅう言っていたことを思い出し（今もです）恥ずかしく思いました。「片づけ」をするには、まずは、「整理」をし、その後、「収納」を行うことが必要で、これらなくして、「片づけ」はできないことを実感しました。連休中に、整理収納、家族で取り組んでみたいと思います。

ご参加いただきました保護者のみなさん、ありがとうございました。直接、お話を聞いたみなさん、この紙面を読んでいただき、なるほどと感じたみなさん、連休を利用して、お子さんといっしょに整理収納に取り組んでみませんか。